

第67回 市民事業専門委員会の結果概要 (H30. 5. 28)

1 第4期委員からの引継書への対応状況と今後の対応案について

引継書に記載された内容に関して、平成30年度の方針・対応案を検討した。

2 市民事業専門委員会活動スケジュールについて

専門委員会及び平成31年度水源環境保全・再生市民事業支援補助金の選考会の日程について検討し、次のとおり決定した。

第68回専門委員会 平成30年7月6日(金)

第69回専門委員会(市民事業交流会) 平成30年9月29日(土)

補助金一次選考会 平成31年2月14日(木)

補助金二次選考会 平成31年3月3日(日)

3 補助金申請手続きの検討について

第40回県民会議(平成29年12月7日開催)において、補助金申請事務が煩雑であるという意見があった。そのため、県民会議委員のうち学識経験者委員から意見をいただき、その結果を踏まえて事務局が作成した改善案の内容を検討した。

4 市民事業交流会について

事務局が作成した企画案を検討し、次のとおり決定した。

開催日時 平成30年9月29日(土)

内容 外部講師によるファンドレイジング講座、補助団体のうちファンドレイジングを実施した団体による事例報告、補助団体と市民事業専門委員との意見交換

会場 神奈川工科大学 I T エクステンションセンター(本厚木駅徒歩4分)

5 平成29年度市民事業支援補助金事業実績及び平成30年度交付決定状況について

事務局より資料に基づき説明した。

委員会における主な意見 (○=委員の発言 ●=県側の発言)

【市民事業支援補助金の対象となる団体の開拓】

- 森林インストラクターの会の会員の方々は、同様の活動をしている他団体の情報を持っていることから、その情報がこちらに入ってくれば裾野は広がると思われる。
- 市町村が持っている情報を活用したらよいのではないか。
- 里地里山で活動している団体にも、当補助金の情報を知らせたらよいのではないか。
- チラシだけだと情報が足りないので、市町村の環境保全活動団体を集まる会議などで、この補助金について紹介させてもらえるよう依頼したらよいのではないか。(1年間で数市町村、地域ごとに依頼するなど)
- 県民会議の場においても周知を図り、委員の方々にもチラシを持ち帰っていただいて各種会合の場などで配布や紹介していただくなど、新規団体を増やすような取組をお願いすべきではないか。
- 7月30日に開催される県民会議において、対応したい。

【市民事業支援補助金の申請手続き】

- (事業計画書のうち『(2)事業内容』、『(5)今後の展開』及び『(6)安全面・県民へのPR』は、提出期限を後ろにずらしてもよいのではないか、という意見に対し)『(2)事業内容』については、審査における判断に必要不可欠であるため現状どおりでよいのではないか。
- 記入例は行数を減らし、記入にあたってのポイントも記載するほうがよいのではないか。
- 一般の方にとっては予算を組むという作業が大変なので、期限を定めて、一度は差し替えを認めたらよいのではないか。
- 申請相談の対応として、平日は忙しく相談する時間がない人のために、土曜、日曜でも申請相談が受けられる仕組みを検討されたらよいのではないか。

【市民事業支援補助金の補助対象経費とする講師謝金】

- 〔平成30年度補助金にかかる審査会において、謝金額が高額なものや、回数が多いものが見受けられた。こうしたことから、事務局案として、それらに上限を設けるという案を提示した〕
- 講師謝金の上限額は公式には決めないこととし、審査の参考となる内規の中で、参考となる上限額を設けたらよいのではないか。
 - 講師への依頼内容（間伐などの技術指導なのか、講演なのかなど）によって、時間を決め、何時間まではいくら、それ以上は補助できないという形で上限額を決めたらよいのではないか。
 - 事務局案では、謝金の回数に上限を設けるとなっているが、同一人に対する回数としたらどうか。

【市民事業交流会】

- 事務局案では、今回の交流会の参加者は補助団体と卒業団体としているが、補助団体の知り合い等、水源環境の保全活動をしている団体がファンレイジング講座に興味があり、参加したいということであれば、全体で10名程度であれば可としたらよいのではないか。